

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692700020		
法人名	医療法人社団 外松医院		
事業所名	ハーモニーグループホーム		
所在地	京都府舞鶴市竹屋98-1		
自己評価作成日	平成29年5月5日	評価結果市町村受理日	平成29年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2692700020-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に寄り添ったケアを意識し、スタッフ全員がご利用者様との良い関係作りが出来る。出来る限り季節を感じられる行事を取り入れ(お餅つき、豆まき、桜ドライブなど)季節感のある施設作りが出来る。出来ることは参加(掃除や食事作りなど)をして頂き楽しみを持ちながら自立支援を行っている。近隣住民とのふれあいを大切にしています。健康管理では、24時間対応の医療体制があり、連携しながら安心して生活を送って頂ける環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは個々の利用者により寄り添った個別ケアに取り組んでいます。庭の畑で野菜作りや収穫、草引きなどに携わる方や調理や洗濯たみ、得意な書道や縫物、季節の壁飾り作りなど、利用者が得意な事やできることに携わりながら暮らせるよう支援をしています。また好きな歌手のコンサートを観に行ったり、演劇を観に行く予定もあり、少人数や個別で出かける支援にも取り組み始めています。食事面では調理師の専門スタッフが利用者の好みや旬の食材、畑の収穫物などを用いて利用者には皮むきや野菜のカット、盛り付けなどに携わってもらいながら調理し、利用者は職員と会話を楽しみながら共に食事を摂っています。天気の良い日は近隣の散歩や買い物、季節に合わせて桜や紫陽花、コスモスなどの花見や鯉のぼりを見に行くなど利用者が楽しめるよう多くの外出の機会を設けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように ○ 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時にスタッフ全員で理念を唱和し常に意識を促している。ミーティングで理念に沿った支援となるよう話し合い実践に繋げている。	「和」を大切にした法人理念を基にホーム独自の方針を掲げ、事務所に掲示すると共に朝礼時に唱和し職員が意識できるようにしています。また毎年方針に沿った事業計画を作成し、今年度はケアの在り方や人材育成などを掲げ、毎月の会議や年度末に職員間で実践状況を振り返り確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事の参加を出来る限り行っている。	回覧板や運営推進会議などで地域情報を得て正月のどんど焼きや祭り、防災訓練に参加したり、文化祭には利用者の手芸や書などの作品を出展し見学に行っています。またホームの餅つきは地域の方に声掛けし来てもらったり、ホームの玄関には隣人が季節の花を植え飾ってくれています。散歩や買い物時には利用者と一緒に出会った方と挨拶や言葉を交わす関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の中で介護支援相談や健康相談などのコーナーを作り地域住民の参加の声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催しており、自治会長、民生委員、市高齢者支援課、地域包括、家族会会長の参加を頂き会議の中で得られたご意見を参考にさせて頂きサービスの向上に繋げている。	会議は家族会会長や町会長、民生委員、市職員や地域包括支援センター職員等の参加の下、隔月に開催しています。入居者の状況や行事報告、職員の状況等も報告し意見交換しています。会議では参加者から様々な情報を得たり、災害時のホームの対応について意見交換し、得られた意見を基に水の侵入を防止する新たな設備を整える等運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いており、事業所の報告、市からの報告とさせて頂いた中で情報の交換ができています。	市の担当者は運営推進会議に参加を得ると共に日常的に関わる機会も多くあり、分からないことは随時相談しアドバイスを得るなど良好な関係を築いています。またケア会議や研修案内などが市から届いた際は参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を持ち理解を深めている。現在身体拘束を行っている利用者は無。	身体拘束に関する外部研修を受講しホームの勉強会で研修内容を伝達し職員の理解が深まるよう努めています。利用者は庭や玄関から自由に入り出すことができ職員は見守ったり、一緒に付き添って外に出ています。利用者の行動を制止する言葉掛けが見られた時はその都度注意をしたり、全体会議やミーティングでも具体的な事例について話し合うなど、利用者が自由に過ごせるよう支援に努めています。	

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修会に参加し、施設内においても勉強会を実施している。スタッフは言葉による抑制等も無いように努め、不適切な対応が見られた時は、都度、個別に指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設を見学して頂いた上で、入居時の説明を十分に行い、入居後も疑問点が無いか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会会議などで意見を伺いそれらを運営に反映させるようにしている。	日々の関わりの中で利用者の声を聞き、個別ケアに繋げたり、家族の意見は来訪時に利用者の様子を伝えながら聞いたり、中や年に1度の家族会、運営推進会議などで聞いています。身体状況の維持について出された意見では、体力の維持に向けた生活リハビリの取り組みを伝えたり、個別の要望にはできるだけ納得が得られるよう対応や説明を行いサービスに反映できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的及び必要時に個人面談を取り入れながら意見を聞くようにしている。	職員が意見を出しやすい環境作りに努め、月に1度の全体会議では参加できない職員は事前に意見を出し、ミーティングや業務の中でも職員の意見を聞いています。業務改善やより良い支援に向けて多くの意見が出されており、職員間で検討し実施に繋げたり、法人に上げテレビやエアコンの買い替えなどに繋がっています。また総合施設長も随時職員の意見や話を聞くようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の報告や、職員個々の状況を把握しながら頑張っている職員に対して給与や賞与に反映しようと努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会意欲のある職員に対しての研修への参加は積極的に進めている。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府や舞鶴市のグループホーム連絡会の交換研修や研修会を通じて同業者との交流を図っている。管理者の活動に協力的でありいろいろな取り組みに対しても理解を示している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人の訴えや希望に対し耳を傾けながら、それぞれの思いに気づく努力をし、時間をかけながら誠実な対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の間はこまめに連絡を取り信頼関係を築けるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ多くの情報を収集し、ご本人とご家族の希望が取り入れられるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場に立ち、思いを尊重し共に生活を送るよう処遇方針にも上げ努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とスタッフとの関係も大切にし、関わりを持っていただくよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで関わってこられた関係が保てるよう、希望される場所へ出かけたり、来ていただいたり関わりが保たれるよう努めています。	近所だった方や友人、親戚等の来訪があり、居室やリビング等の落ち着ける場所に案内し、ゆっくりできるよう配慮をしています。散歩やドライブを兼ねて馴染みの場所に出かけたり、職員や家族が送迎し以前から利用している美容院を継続している方もいます。また家族と共に冠婚葬祭や墓参り等に行く際は身支度等を支援しています。届いた手紙や友人からの電話を取り次いだり、電話を引いている利用者もおり、関係を大切に支援をしています。	

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々の言い争いもありますが職員が間に入り仲間意識が持てるよう努めています。 ご利用者様の関係性を把握した上で座席を配慮しトラブルの予防や調整に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談や出来ることへの体制作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の立場に立ち気持ちシートなど活用し思いに気づけるよう努めています。	入居時は利用者や家族と面談し、希望や趣味、生活歴などを聞き、利用していたサービス事業者からも情報をもらい意向の把握に努めています。入居後は日々利用者と一緒に過ごす中で利用者の言葉や職員が気付いたことなどを個人記録に残し、意思疎通が困難な場合は表情などから推測し、会議の中で思いが把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけ多く情報を収集し、入居されてからもご本人やご家族との会話の中から把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員会議で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議や申し送りを通じて、ケアの内容の確認、様子、課題など話し合っている。ご本人、ご家族にも状況をお伝えし、意見を聞きケアプランに反映している。	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成しています。毎月全体会議の中で全利用者について新たな課題が生じていないかなどを確認しています。3ヶ月ごとに計画を評価し通常は6ヶ月毎に事前に確認した家族の意向や必要に応じて医師や看護師の意見を聞き、介護計画を見直しています。	介護計画の見直し時には利用者の心身の状況が把握できるよう再アセスメントを実施されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録がケアプランのベースになっており、その中で気づきや工夫からケアプランの見直しに活かしている。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応できるように努めています。その時々々の訴えに対し臨機応変な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ散歩など地域に出かけ挨拶などを通じて覚えて頂き、1人で外に出ておられる時には声をかけて頂くようお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望をお聞きし受診や訪問診療の支援をさせて頂いています。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えていますが現在は全員が母体の協力医に変更し月2回往診を受けています。協力医は利用者の体調変化時などは24時間連絡や相談することができます。また歯科を含めた専門医への受診は基本的には家族が付き添い、家族が行けない場合は職員が同行し受診情報などはその都度家族とやり取りし共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の健康上、気付きや変化があれば看護師に報告出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室と情報交換や相談ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご本人、ご家族に施設で出来ることを伝えその都度考えられるようにつとめています。	入居時に重度化した場合の指針を基に終末期の対応について説明し、意向を確認しています。体調の変化に合わせて医師から説明があり、本人や家族の思いを確認しながら医師を交えて話し合いを重ね支援しています。ホームの看護師や医院の看護師と連携を図り、看護師による講習なども受けながらホームでできる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを置き、勉強会や研修を実施しています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、地域の方や家族会からも参加を頂き体制を築いています。	年に2回訓練を行い1度は消防署の協力を得て夜間を想定した消防訓練を利用者と共に実施し、独自では水害を想定して行い、水の侵入を防止する新たな設備を整えています。運営推進会議で訓練を案内し地域の方の参加を得たり、災害時の対応についても話し合っています。また地域の訓練には利用者と一緒に参加し、災害に備えて水や食料を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇方針を毎日唱和し、スタッフの意識付けを行いプライバシーの保護に努めています。	プライバシーの尊重などが盛り込まれた処遇方針を毎日唱和し、接遇マナーなどに関する研修を行い言葉遣いや対応について職員に伝えています。基本的には苗字で呼んだり本人に分かりやすい声かけに努め、大声を出さないことや入室時にはドアが開いていても了解を得ることなどに留意しています。不適切な言葉遣いなどが見られた時はその都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、ご本人の希望を聞くように心がけ、自己決定出来ない方はご家族と相談させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ優先ではなく、その方の思いを聞きいれ支援するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望されるものは買い物など一緒に出かけ選んで好みのものを購入できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど出来ることへのお手伝いをさせていただいています。	利用者の好みや旬の食材、畑の収穫物等を取り入れて献立を決め、できるだけ利用者と一緒に買い物に行き、野菜のカットや盛り付けなどに携わってもらいながら調理し、職員と共に談笑しながら同じ食事を摂っています。寿司や定食等の外食に行ったり、チーズケーキやカステラ等のおやつ作りも楽しんでもらっています。また敬老の日には家族を招き一緒に食事を楽しむ機会も作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や日々食べておられる様子から健康維持できるようその方に応じた支援に努めています。		

ハーモニープグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ることは出来るだけ行って頂き職員が確認しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、パターンの把握、自立に向けた支援に努めています。	排泄チェック表を用いて個々の利用者のパターンを把握し、その方のリズムに合わせて声掛けやトイレに案内し失敗のないよう支援に努めています。重度の方も体調を考慮しながらできるだけトイレで排泄ができるよう支援しています。またミーティングで日々個々に合った排泄用品や支援の方法を検討し、職員間で統一した支援ができるよう共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促せるよう、運動や食べ物で予防できるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1日おきになっていますが本人の状態や希望に合わせて臨機応変に対応しています。	入浴は本人の希望や体調などを考慮しながら午後から準備し、概ね週に3~4回は入れるよう支援をしています。一人ずつ湯を入れ替え、季節の柚子湯などを楽しんでもらったり、入浴日以外でも希望があれば入ってもらっています。強い入浴拒否の方はなく、声掛けなどを工夫しながら無理のない入浴支援に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には自宅で使われていた家具など置かれたり入眠の時間も個人の希望に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があると申し送り時に内容、目的副作用について職員が情報共有できるよう報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみを会話の中から見つけ支援できるよう努めています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やご自宅などご本人の希望に合わせて外出できるよう支援しています。	散歩や買い物、地域行事等に出かけたり、季節ごとに初詣に行ったり、桜や紫陽花、コスモスなどの花見や紅葉狩り、鯉のぼりを見に行くなど、外出行事によっては家族にも声をかけ一緒に出かけています。また歌手のコンサートを見に行ったり、吉本の漫才を見に行く予定があり、少人数での外出支援にも取り組んでいます。また庭や玄関の花を見ながら外気浴の機会も作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時ご家族とも相談し希望にあわせ財布を持っていただき買い物などご自分で支払い出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が自室に置けるように回線を引いています。手紙等についても希望があれば対応させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑や花が窓から見える位置に設置したり、ホールにも季節の花を置き季節感を取り入れるように心がけています。	共用空間は生花を活け、七夕飾り等季節に合わせた作品や写真等を飾り、大きな窓からは庭の花や野菜を見ることができ、四季を感じながら過ごしてもらっています。利用者の関係を考慮し快適に過ごせるようソファや椅子、カウンター席を活用したり、テーブルの数も多く、多くの居場所を作っています。またインフルエンザを予防できる空気清浄機や日々の掃除に加え、一日に2回手すりなどを消毒し清潔な住環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人にとって馴染みの席はあるが、どこにでも座れるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居されてからも常に本人やご家族の希望に沿って、馴染みの家具を入れて頂けるように配慮しています。	入居時に居室には本人が安心できるよう馴染みのある品を持参してもらうよう伝えています。テレビや使い慣れた筆筒や姿見、大切な仏壇などを持参し、家族と安全に移動できる動線を考えながら配置しています。また家族の写真や自身の趣味の作品などを飾り、絨毯を敷いたり、畳を入れる方、冬は炬燵で過ごす方など、生活習慣に合わせてその人らしく過ごせるよう環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はバリアフリーになっており、必要箇所に手すりも設置しテーブルや椅子も歩行時手の届くところに置き安全な環境作りをしています。生活の中で出来ることは見守りの中安全に行えるよう支援しています。		